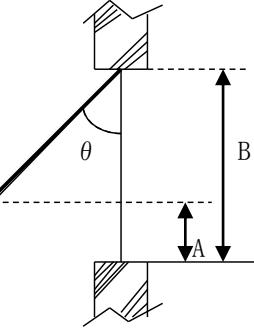
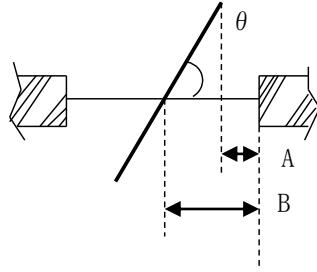
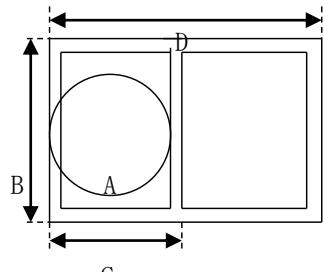
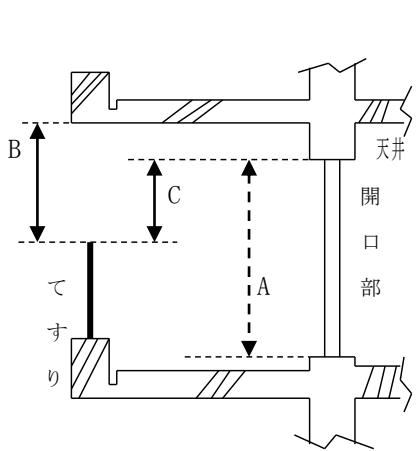


第2表 開口部の有効寸法

	型 式	判 断
突出し窓		<p>Aの部分とする。</p> $B = B (1 - \cos \theta)$ <p><math>\theta</math> は最大開口角度 (0度から90度)</p>
回転窓		<p>Aの部分とする。</p> $A = B (1 - \cos \theta)$ <p><math>\theta</math> は最大開口角度 (0度から90度)</p>
引き違い窓	 <p>注 1 A及びC=0.5D 2 Aは50cmの円の内接 又は1mの円の内接</p>	<p><math>B \times C</math> とする。</p> <p>なお、次の寸法以上の場合は50cm以上の円が内接するものと同等以上として取り扱うことができる。</p> <p><math>B = 1.0\text{m}</math> (0.65m) 以上  <math>C = 0.45\text{ m}</math> (0.4m) 以上</p> <p>( )内は、バルコニー等がある場合。</p>

外壁面にバルコニー等がある場合



Aの部分とする。  
なお、Bは1m以上で、てすりの  
高さは1.2m以下とする。  
バルコニーの幅員は概ね60cm以  
上の場合に限る。これによりがた  
い場合は、Cを開口寸法とする。